

## 「知事との元気まるごとトーク」(令和4年9月26日開催)

「知事との元気まるごとトーク」は、知事と地域で元気に活動している団体等の皆さんが、青森県の未来を創るために直接意見交換をする場です。

令和4年度第1回目の「知事との元気まるごとトーク」を令和4年9月26日(月)に「十和田市民交流プラザトワーレ」(十和田市)で開催しました。

当日は、上北地域県民局管内の4名の方にお集まりいただき、「持続可能な地域づくりを目指して」をテーマに意見交換を行いました。

当日の概要をお知らせします。

### 当日の出席者

材株式会社・株式会社Jサポート	代表取締役社長	浄法寺 朝生さん
株式会社ヘプタゴン	代表取締役	立花 拓也さん
株式会社ビーコース	代表取締役	村岡 将利さん
株式会社 and more・Misawa Art Project	代表取締役・代表	久慈 美穂さん

### (知事)



皆さん、こんにちは。

本日は本当にお忙しいところ、こうして集まってくださって感謝いたします。

皆さん自身が仕事を興して、いろいろなことにチャレンジしているため、本当にお忙しいと推察します。それでも、人と出会って楽しむことだったら厭わない、そういう皆さんのような気がしています。

コロナの影響で、人と人が出会う機会も少なくなり、Web、ネットはあるものの、直接会ってお話ができるということは、とても良いことだと思っています。

また、当日の出席者の方には、それぞれ個別にお会いしたことがあるかと思いますが、4人の方全員揃ってお会いして、場を共にすることができて嬉しいです。

皆さんが、今、やっている仕事というのは、青森でなぜこんなことができるんだ、なぜ成り立つんだ、あるいは、そんなことやったら駄目じゃないかと、周りから反対されたり、名のある会社に勤めた方が良いとか言われた方もいらっしゃるかもしれません。

県では、企業の誘致等も非常に大事だと考えて、どんどんやってきましたが、それだけではなく、起業創業という、自由に仕事を興し、しかも一定の経済が回っている、あるいは一定の情報システムとか、やり取りが仲間とできるような青森になっている、いわゆる経済の自由感があるから、自分の人生をこの青森でチャレンジできるんだということを示していかなきゃいけないと、そういう気持ちでやってきています。

産業を興すという場面において、皆さんには本当に心から感謝です。皆さん自身がとてもお若

いですが、更に若い世代に青森ではこんなことができるんだということが伝わっていく、繋がっていくと、私は信じています。

これまで青森県では、とにかく固まったパターン以外は許されないし、新しく何かを始めるためには、とにかく説明、説得が求められる。今では当たり前になったことも、最初はものすごく抵抗がありました。しかし、「攻めの農林水産業」ということで販売を頑張ってきて、農業所得が2倍になりましたし、更に、農業における起業創業、自分で特産品を作るとか、会社を興すといったように仕組みが変わってきたわけです。

こういったことが、このふるさと青森には大事だと思っています。

先頭に立つということは、風がぶつかってくるものですし、皆さんにも、同じ思いがあり、どのジャンルにおいても、いろいろな大変さに向き合っていると思います。

そういった皆さんだからこそ、今の青森、あるいは産業について思いがあると思いますので、今日は皆さんにいろいろな話をさせていただいて、そのことを次の世代の方々のために我々がどう心構えするかということに生かしていきたいと、そう本気で思っています。

繰り返しになりますけども、本当に忙しいところ、わざわざ来てくれて、感謝しています。

よろしくお願いします。

(上北地域県民局長)

本日の意見交換でございますが、テーマは「持続可能な地域づくりを目指して」です。

文字通りですが、少子高齢化、あるいは人口減少社会については、全県での課題になっております。勿論、上北管内においても待ったなし、喫緊の課題であると考えています。

上北管内は、全部で9市町村がありまして、最近の国勢調査においても、これまで20万人を超えていた人口が20万人を切っており、非常に危機的状況だと考えております。

人口減少が、どのような影響を与えるかというのは、皆さん、御存知のとおり、行政をはじめ、町内会、コミュニティとか、様々な分野に障害やいろいろな影響が起こる、そういうこともありますので、上北地域県民局としては、市町村と連携して、他都道府県からの移住・交流や子育て支援等の取組を行ってきましたが、これらの政策を上手く実行力を高めていくためには、ふるさとに元気な地域が、コミュニティがなければあり得ないと我々は考えております。

若い人たちが生き生きと暮らせる、こういう地域がふるさと青森県にあることが大事だと考えており、この5年間は、様々な取組をやってきました。特にビーコースの村岡さんをお願いして、管内の若者の生業を守る地域づくりをやってみたいという人たちとネットを介して、そういう人たちに集まっていただいて、人材育成ということで日々勉強をしていただいています。今、地域の場づくりなどで、ようやく若い人たちが結集し始めているという状況です。

今年度は、この地域の場づくりなどと管内の企業を結びつけて、いわゆる地域について協働で取り組み、人と仕事と地域が強固に繋がるネットワークを創り出して、最終的に受け皿として、持続可能な地域を作っていくという作業をしているところでございます。

本日は、先ほど知事が申しましたとおり、AIとか、IoTの専門家であり、県内で最先端の



企業のトップランナーにお集まりいただいております。

既に皆さんは、上北地域県民局は勿論のこと、県の仕事とも深く関わっておられますけれども、本日は、こういう意見交換会の場で普段の企業活動の中で感じている、あるいはやってみたいということをお話いただき、それに関して、知事をはじめとして、こういうことをやっているんだよと、意見交換をすることによって、上北管内での活力になる、持続可能な地域をつくっていく、次のステップアップに結び付けたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

(浄法寺朝生氏)



当社は、8割がUターンした方々で、地域課題解決の仕事を20年やっています。

私自身、子どもの頃から親に青森はPR下手だとか、人は良いけれど商売下手などと、ずっと聞かされ続けてきました。子どもの頃からなので、35年前から40年ぐらい前からになります。文句は言うけど何もしない、そういう人が多いのかなと思っていたので、自分は何か行動を興したいということで、地域課題を解決

する会社を立ち上げまして、高齢者雇用とか、65歳以上のチームを作ったりしています。これからは80歳まで元気に働ける、そういうふうにしなないといけないと思っています。

他に、青森ヒバのブランド化とか、とても良いものなのに安すぎると感じる場合があります。例えば、農林水産では、素材で売っているのですが、青森県の人が9割育てて1億円入っているところで、健康企業系の会社には、300億円入るとか、本当にそれくらい付加価値が付けられていないということがあるので、商品開発とかブランド化の仕事を今やっています。

Uターン人材を活用するというでいくと、やっぱり青森は、魅力的な仕事があれば人は沢山来ると思っているのだから、魅力的な会社、魅力的な仕事を作って、そこに人を呼び込むということが必要だと思います。

目立ったところでいうと、今、馬も飼いはじめています。青森県では馬文化があるのは千年くらい前からかな。

(知事)

平家物語の前からよ。

(浄法寺朝生氏)

そうなんです。そういう貴族の憧れの馬産地だったわけですよね。それが、今、食べる文化ぐらしか残っていないので、これはおかしいんじゃないかと思ったり、利益度外視で馬を増やすことをしていて、先月も日本の上場企業の会社の社長さんたちが20人ぐらい三沢に来て、青森屋に泊まって、馬から学ぶ研修みたいなものを行ったんですが、そういう青森の資源を活かしていくとか、復活させていく活動をUターンしてきたメンバーと一緒にやっています。

未来のデザインということなので、これからやりたいこととしては、大学生の起業を増やしたいなと思っています。大学卒業して起業ではなく、大学1年生で計画を立てて、2年生で起業して、3年生の時には、周りの人が時給900円だ、1,000円だって騒いでいる時に、月5、

6万でもいいから稼いでいるような仕組みを作りたいなど。というのも、私は大学の時に、選択肢が就職しかなかったんです。先輩も就職するし、皆も就職活動して、頭の中に就職するということしかなかったんです。

(知事)

生業を興す、業を興すんじゃなくて就職。

(浄法寺朝生氏)

そうです。

ただ、先輩とか同級生で起業して目立っている人がいて、何か上手くいっているとか、失敗してもいいと思うんですけど、起業という選択肢が私の頭にあったと思うんですね。それで、青森の学生に起業という選択肢を与えたいということで、今も社員と一緒に声がけをしているんです。

私も一生懸命考えますが、起業した学生の支援は、県と一緒にやっていきたいことです。

自然豊かなところは全国にあります。知事は青森をどういう地域にしたいのかお聞きしたいです。

(知事)

まず、最初の方の今日のテーマの方からお話します。

浄法寺さんのお話で、御自身が産業を興したことの他に、馬の話も出てきました。元々、天間林あたりの地域は、馬の生産では大変に歴史があって、それが十分に活かされていないと感じています。こうして、今は道路が繋がったけれども、逆にそういう馬の文化をもう一度、思い出してやるべきだと思いました。歴史と伝統があって、乗馬以外の楽しみもあるということで、町長からも活用できるように予算取りたいといった話もあって、面白いことがどんどんできるんじゃないかと思っています。

また、大学生の起業創業という、非常に良い意見を出してくれたと思っています。

青森県で、この起業創業を手掛けたのは十数年前ですが、当時は本当に働く場所がなくて、大学生だけでなく一般的にですね。今では、一桁から111人に増えました。青森県では、非常にいろんなことにチャレンジさせてもらえるというムードが出てきて、特に飲食関係は、潰れたり、駄目になるということがあっても、何度でもやれるぞというようなムードが出てきて、コロナであったにも関わらず、この分野だけは、年間140組進んで来ました。

実は、最初に出てきた学生さんの事例が弘前でありました。ダンスの関係で、親御さんは、大学出て、ちゃんとしたまともな就職があるのに、うちの息子を煽ったでしょうという感じで、怒られました。

気持ちは分かるんです。ストリートダンスで飯食えるのかって。でも、マーケティングはちゃんとしているし、銀行が調べて全然大丈夫だし、実際やるべきだということで進めることができた例がありました。

その後、また更に創業してくれて、今はダンスだけではなくいろいろとやってくれています。

学生時代、さらにそれより早い時期に取り組めば、言い方は変だけど、多少しくじっても経験になる。その経験則を持って、自分で仕事を興してもいいし、その経験則が、今、雇う側、企業

にしてみても、そういうファイトとガッツを持った方というのは、求められていると思っています。

それから、青森県をどんなエリアにするかということで、私がずっとやってきたのは、とにかく食えるようにすること。これまで、食えなくて、食えなくて、仕事なくて、ただ、ただ、若い人が流出していたという状況がありました。特に得意分野で食えていなかった。農林水産業とかあるいは観光産業とか。だから、ちゃんとした単価で物が動くように、利益を青森へ戻すというような形で攻めて、農業取得は少なくとも2倍になったからね。

今、三沢の方は、ごぼうの生産が儲かるようになってきたけれども、そのシステムになるまでは、凄く苦勞をしました。

ただ、それプラス、浄法寺さんの言うとおりに、にんにくにしても何にしても、九州等県外に持って行って、売った方が儲かるわけで、青森県のものを持って行って売っています。

それから、野菜にしても、確かに、そのまま売っても儲かるんだけど、これまで加工しようと言っても、なかなかそういうところに至らなかったのが、道の駅を活用して、女性の起業創業で漬物とかから始まって、いろいろと段取りを進めて、利幅が取れるシステムというのに皆が気が付きました。

ですから、青森県をどうしたいかと言うと、一言で言えば食える青森にしたい。

もう1つは、皆さんのように、思いがけない方面でチャレンジしてやっていける青森。DX青森だって言えるぐらいの、そういうパターンになったっていいんじゃないかと思っています。

要は、固定された型からはみ出すことが駄目というのではなく、いろいろなチャレンジをした人がチャレンジした上で、なおかつ生業として導けるということが凄く大事だと思います。自然環境を守るとか、ちゃんとやることはやっているからね。

あともう1つ、あまりに健康状態が悪いものだから、少なくとも、自分の健康に、ちゃんと気を付けるような県民になって欲しい。子どもたちにも、ダンスであったり、食であったりと、自分で行ってキャンペーンをやっていきます。

要するに食える、死なせない。死なせないというのは、健康という意味で。

そういうことにしたいということでやっています。

自然については、水循環を守ることによって守れると思っています。

勿論、就職できるように、青森県の学生を採用してほしいということで、600社ぐらいお願いもしました。

でも、就職だけでなく起業創業も大事だと思っています、とことん支援しています。お話しただいた学生の起業も凄くいいと思っています。

#### (地域産業課)

創業起業支援ということが出ましたが、学生の選択肢を増やす、ここで生きていくために、という観点は、そうだなと思って聞いていました。

先ほど、知事が話したように、多少失敗しても、次はこうしようとか、やり直しができるのが、やはり学生の特権だということも、そうだなと思って聞いておりました。

1点、起業した学生さんの支援というと、個別にどんなことがあると、より選択肢が広がるのかというのを教えていただけると凄くありがたいです。

(浄法寺朝生氏)

私は25歳でこの会社を作りました。20年前になりますが、戻ってきた時に、周りの経営者は60代とか70代。同級生に、まだ会社継いでないのかって聞いたら、いや、自分が継いでないんじゃないかって、お父さんも継いでないと。

でも、今、こうして20代、30代の前例があると、真面目にコツコツやると思うので、是非、学生の起業の支援をやっていきたいと思います。よろしくお願いします。

ありがとうございました。

(知事)

良い意味で、前例が出てくるまでの努力をしました。公務員って、手堅いことばかりやっているかと思うかもしれないけど、県庁内でベンチャーとかいろいろやらせています。いろんなことをやってきて、そういうムードを作って、「きみ、いろいろとできそうじゃん。一緒にやるか」って。

馬の話も凄く面白いと思いました。

(浄法寺朝生氏)

馬を食べる以外の活用を。

(知事)

それをよく言ってくれた、本当に。

こういうメンバーが集まれるようになったということが凄いことです。17、8年前だったら、そんなこと、絶対ないですから。

(新産業創造課)

今日来ている皆さんのお力添えがないとなかなかDXは進まないと思っています。

(知事)

今、ながいも農家のDXが進んでいるという凄い状態です。農家は進んでいる。実際、活用しているんです。

(地域活力振興課)

ちょっと話がそれるのですが、実は、浄法寺さんは地域活力振興課で実施している、あおもり立志挑戦塾の第3期の修了生です。

挑戦塾に参加された修了生がこのような形で御活躍されているのは、大変心強いと思います。ありがとうございます。

(知事)

立志挑戦塾のような取組って、他にないからね。

いろいろな人が集まって、面白くなっているんです。今、立志経営塾という、実際にビジネスを展開しようということを寺島塾長が発案してくれたので、令和元年度から実施しています。

今年、県庁を辞めて、桃農家になった人が、桃ビジネスを始めるといふことで、経営塾で学んでいます。

(立花拓也氏)

ヘプタゴンの立花です。

当社もIT企業でして、クラウドとかAIとか、まさにDXをやっています。当社は、県内企業さんと一緒に仕事することが非常に増えておりまして、いくつか事例を御紹介すると、最近、弘大の中路先生が取り組んでいるビックデータのパソコンづくりを当社がお手伝いしています。



そのほかには、青森市の大青工業さんと一緒に、遠隔監視や操作が可能で、AIが故障予知を行う冷蔵設備を一緒に開発しました。

あと、三沢のKAWACHO RICEさんで、お米の流通の過程でいろんな検査があるんですね。これは青天の霹靂かとか、つがるロマンかというのを、今までは検査員が目視で、チェックをしていたのですが、やっぱり人手が足りないし、プレッシャーがかかる仕事なので、それをAIでできないかということで、スマホで撮れば、銘柄判定ができるというものを開発して、今、アマゾンの全国支援に向けていただき、全国にも注目していただいています。地元の企業さんとITを組み合わせて事業をしているというところをお手伝いしているような感じです。

また、自身の体感も結構変わってきていて、リモートワークが最近増えてきております。当社も10年前からフルリモートワークで、出社は全くゼロ、働く時間もフレックスで、働く場所も県内が半分、仙台、東北にも約半分くらいで、てんでんばらばらで、実際、全員が集まったことがない会社ですし、加えて、自分の給料は自分で決めてもらうような、自己裁量型の組織を作っています。

残業、実際、マイナスなんです。8時間未満で働いてもらうような形で、平均の給料は上場企業よりも上になったという形で、しっかり食える地域を作りたいなと思って、そういうチームを作っているところです。

最近、求人を出していないんですけども、東北各地から応募をいただいています。青森でも、こういう形でやっていけるということを発信していきたいなと思っています。

地域への貢献、次世代の育成ということでいうと、コロナ以前にこのメンバーと立ち上がって、県内の学生さんを、ラスベガスでやるCESという世界一大きい展示会があるんですが、それに無償で連れて行って、グローバルなテクノロジーを体験してもらうというような取組を県南地域で支援してやっていただきました。

我々みたいに地方で頑張っているけども、なかなか学生には認知されていないという課題があるので、そのあたりを少し払拭したいな。将来的に県内でも働けるんだよということを学生にも知ってもらいたいということで取り組みました。

今後、是非、一緒にやりたいなというところというところ、やっぱり多様性を増やしていきたい。それは、働き方もそうだと思うんですけど、今は、青森にいても仕事ができる時代になってきた一方で、まだまだそういう会社、人は多くないので、そういう会社と一緒に増やしていければいい

いのかなと考えています。

(知事)

ありがとう。

浄法寺さんもさっき言ってくれた、どういう青森にしたいかというところで、感性の自由が保障されて、なおかつ多様性が認められて、その上で食えるというふうにしたいと思っていました。今、立花さんが言ってくれたこと、そのものじゃないかと思います。だから、凄く嬉しいです。

(労政・能力開発課)

多様な働き方、多様性というところですけども、まさに青森県内で立花さんのような経営者がいらっしやることを、どんどん広めていきたいなど、私もっております。

今年度、県では、ジョブカフェを通じて、いろんな働き方があるんだということを、時間も、短い時間でもいいし、自分の働きたい時間で働けるような、そういったやり方もあるんだよと。

(知事)

それができる青森県でなければいけないということ。

(労政・能力開発課)

そのためには、経営者の方に意識改革をしていただかなければいけないと思っております、経営者の方に向けたセミナーを開催しようとしております。県内にこういった優れた企業があるんですよ、こういったやり方でやっている企業があるんですよということ、是非、立花さんに、今度、講師として御協力いただければと思っております。

あと、まだ、立花さんの企業、若い人たちをはじめ、皆さんに知られていない、そういったところも含めて、県としても、小学生、中学生、高校生、大学生、それぞれに向けて情報発信を行っています。今年度も夏休みに親子企業見学会ということで、今、コロナ禍ということもありまして、オンラインでの企業見学会を開催したのですが、15分くらいで、企業の番組を制作し、企業紹介をクイズ形式でやったんですけども、かなり好評でした。

皆さんのような企業も御紹介できる場をこれからも作っていきたいと思っておりますので、引き続き御協力をお願いできればと思っております。今後とも、どうぞ皆さん、今まで以上によろしくお願いいたします。

(知事)

ゼロ金利がこう続く中で、銀行も自由度が増してきたというか、今までだと、我々、役所などに債権を貸して、確実な商売をやっていたじゃないですか。それが、農業関係でも起業創業関係でも、面白そうだからやってみよう一緒に、となってきています。だから、良い意味で金利の自由化が進んできたことは起業創業が増えたことにも繋がっていると思っております。

若い人たちにチャンスをとる銀行が出てきたというふうには思っています。



(新産業創造課)

今、金融機関の話が出ましたけど、金融機関自身もお金を貸して利益をあげていたものに加え、コンサルティングといった形でビジネスモデルを変えてきていると感じています。

立花さんの御発言で、若年層の方への周知、こういう企業があることを知ってもらいたいということに関して言うと、10月6日から県内の大学や専門学校において、IT企業による業界研究会を今年からはじめることになっています。

今、6校、それぞれ違う時期の開催を予定してまして、それぞれ、1校あたり2、3社ずつに、県内のIT業界の現状や働き方などを説明して頂き、県内の学生に、より業界のことを知ってもらう取組を行う予定です。

また、10月30日に、東京で、地域活力振興課が移住フェアを実施しますが、同じ会場内で、我々も県内IT企業と、首都圏のIT人材との交流会を企画しております。今日、御出席の方々にも参加をお願いすることになると思っております。毎年やっていることではありますが、着実に帰ってくる人を増やしたいと思っております。

(知事)

農業関係は、UIJターンが、今凄く多くて、Iターンが100名くらい、来るようになってくれました。

だから、このチャレンジャー部隊とは、帰って来なくても、繋がっている。そのために光ファイバーやっているんだと。

日本は1時間ぐらいの時差なら、オーストラリアまで含めて、縦の社会繋がっています。

だから、そういうふうにビジネスも社会の何かを、行動を興すこともできるようになったということをお伝えたいです。

(立花拓也氏)

結構、課題感があります。来る人は多いんですよ。

でも、東京の仕事をしている、東京の会社で東京の仕事をするIT企業が多くなっているので、逆に当社のように地域の課題をあえてできますよ、ということが増えると、やっぱり地元に戻って地域のために東京水準の仕事ができる会社を増やしたいなと考えることがあって、そこを少し協力いただきたいなと思います。

(新産業創造課)

県内の企業とIT企業で、実証事業に取り組んでいますが、今年も2件採択し、これから年末ぐらいまで実証していくことになります。

過去には、立花さんのKAWACHO RICEさんととの米の銘柄判定の取組ですとか、大青工業さんの冷蔵設備の実証などに取り組んでおまして、今年の実証については、2月くらいには、成果を発表できるかなと思っております。

こうした取組から、新しいビジネスに繋げていき、また、皆様にご協力をいただきながら進めていきたいと思っております。

(知事)

年長の経営者と皆さんと連携できるような青森になってきたというのが、凄く面白くてね。だから、今は、帰ってきて住んでも遊ぶにも楽しいし、神戸まで6,500円と交通費も安くなって、実際に行きたい時はどこでも行ける世の中になったしね。

そういったこと等を含めて、そして、仲間がいて、年長者や、同年代でも面白い人がいて、若い方も、いろいろ出てきたとか。県庁もちょっと変わった感じのことをする人がいて面白いです。

あとは社会実装をどう具体としていくかということだと思っているので、踏ん張って、皆でやっています。

(上北地域県民局長)

立花さんも浄法寺さんも、管内で最先端に行く企業のトップランナーだと思っています。

1つ、質問していいですか。

いわゆる自由裁量制の企業、皆さんお会いしてないわけですよ。給料も自分で決めるという、こういうふうなもので、組織をまとめていけるものなんですか。

(立花拓也氏)

まとめるって考えはないというか、社員自身が自分のことは自分が一番分かっているわけなので、そこは、信頼して任せてしまえばそれで済むのではないかということです。

(知事)

ジョブズの性善説に基づくという話を聞いたことがあります。そういう経済のあり方があっていいんじゃないかっていうことではないですか。

(立花拓也氏)

そういうやり方もあっていいんじゃないかなと思います。

(上北地域県民局長)

企業公募、ハローワークにも出してないということですか。

(立花拓也氏)

全く出していないです。

広報で、事例を結構いろんなところに出すんですよ。そういうのを見ていただいて、それで知っていただいて、うちの仕事をしたいということで来ていただくケースが多いですね。

(知事)

何か集まってくるんですね。何か面白そうな、同じ匂いがするぞ、面白そうだと。

(浄法寺朝生氏)

求人に人が来るんじゃないなくて、会社に人が来るイメージです。求人を出さなくても、会社で働

きたいですっていう。

(知事)

ほら、青森、変わっただろう。

(上北地域県民局長)

30年ぐらい私も早かったら会社を起こしたいですね。

(知事)

広報広聴課長からも一言。

(広報広聴課長)

皆さんのお話を聞いて、青森も変わってきたなど、本当に思っています。

皆さんの方でいろいろやりたいこと、あると思うんですね。実際に、行政の場合だと、何を、どんな課題を、どんな手法を持って、具体的にどんなプランで進めていこうかということを経営としてまとめて、実際に予算を議会の承認を得てやっています。

実は、この「元気まるごとトーク」の事業ですが、県民の意見を聴く広聴事業の一環として行っています。

毎年度、知事が予算の要求枠というものを用意して、地域課題に対して、大体3年間で、こういう目標で、こんな業務行程で進めていくんだという事業を、地域県民局が窓口になって、実際、事業化できるだろうということになれば要求していただくというシステムを整えています。

今日は、いろいろな意見が出てくるかと思いますが、実際、地域のためにこんなことをやってみたいというようなことを、ある程度のイメージができましたら、地域県民局の地域支援チームに御相談いただいて、そこで事業化していただければ、広報広聴課としても、未来デザイン枠というもので予算要求をして、是非事業化して、皆さんの提案を1つ1つ具体化していきたいと思っています。

実際に地域県民局で、そういった提案が出たものを毎年1つか2つ、事業化しております。

例えば、西北地域県民局では、地域に伝わる伝統の郷土料理を「めごい飯」というような形で情報発信していきたいということで、今現在、取り組んでいます。

そういったものを1つ1つ、県と地域の方々が協働してやっていく、そういうことが持続可能な地域社会を進める上で大事なことだと思いますので、是非、県民局と御相談いただければと思います。

(村岡将利氏)

株式会社ビーコーズの村岡将利です。

当社は、Web制作事業、ホームページのシステム開発といった事業を行っている他、スペース・エリア事業という事業もあります。私は6年前にUターンして起業しているんですが、地に足をつけた地元で取り組む事業も、見え



るところで何か活動したいということで、スペース・エリア事業をやっています。

ここでは、「second.」、「third.」というスペースを活用して、飲食店だったり、イベントだったり、作業スペースとしての運営を行っています。

Web事業は県外の仕事が多いのですが、地域の仕事では、スペース・エリア事業が多くなっています。

主な事業としては、移住促進で「お試しとわだ暮らし」とか、商店街の活性化ということ。横から関わる人、県外から関わる人と商店街の課題感と、外から入って来やすいような関わる仕事を増やす、「横から商店街」という事業。

それに、地域活性、若者の地域活動支援、地域の場づくりラボみたいなことで、何か取り組みたい人を一緒にサポートしながら、二人三脚で、伴走型でやっていくというような活動もしています。

活動する中において、意識していることは、地域に住んでいる人を生かしていこうというのが凄く大きいです。ナレッジは、そのうち、どんどん貯まるようにしていきたいと思っています。

県外から凄い人を呼ぶというのも勿論あるんですけど、ここは、地域で活動している人に登壇してもらったり、交流施設、同じことをしている人と話す機会というのを大切にしています。

移住促進の面でいっても、外から来てもらうというのも大切なんですけども、圧倒的に地域の人との交流をテーマにプログラムを一緒に考えてやっています。

観光目的で来る人も多い中で、しっかり移住を考えてくれる人、今年は、体験した人が十和田に移住することになっているので、地域の人との交流をテーマにしていくというのは、凄く本質的なことではないかなと思っています。今年も頑張っていきたいと思います。

加えて、中の人にナレッジを貯めるということでは、県外に出て知る体験や経験は、自分たちで拾ってくるということに意識を向けていて、自分たちが外に出て体験しに行くという機会も結構大切にしています。

十和田でそういう活動をしている人と遠征に、コロナだと行けなかったんですけど、岩手や、秋田県に、一緒に皆で行って、いろんな外の活動をしている人に会ったり、その後、活動した人との繋がりも広がりますし、そこで得た知識を自分の住んでいるところに活かすというのも、意識的に比較してみています。

そういう活動をやっている中で課題感があると思うのは、さっきも当たり前からの脱却みたいな言葉もあったと思うんですけども。やっぱり、凄くあるなど。東京へ出て11年ぐらい経験して戻って来ているんですけど。当たり前というところから外れることに凄いパワーがいるなど。

商店街活性化の事業に関わらせてもらったんですけど、既存の団体や仕組みを生かした取り組みは難しいなと思っています。

ただ、そこをなくすという意味ではなく、新しく作った方が、次に目的意識を持った人とやりやすいなというのも出てきました。

既存の仕組みを直すよりは、新しく、何か小さく早く作る、作ってロールモデルにして。成果としては、ちょっと難しいと思うんですが、そういうことが凄く、この中では楽しい活動でした。

さっきも県外に出るという話をしたんですが、青森県の中にこだわりすぎるというのは、青森県の地域の枠を外れにくいというところが凄くあったので、やっぱり1回外に一緒に出るというのも大事だなと思いました。僕は、遠征に行って岩手県と秋田県の方々と仲良くなって、地域

間での交流が広がって、北東北3県でできることもイメージできるようになったという、そういう県を越えた取組も生きていくのかなと思っていました。

当社では、一人ひとりが大義を持って社会をつくるというビジョンに取り組んでいるのですが、そのやりがい、働くというところに課題感が凄くあって、僕はこっちに戻ってきて、解決したいと思って会社をやっています。

そこは、学生さんとか社会人の仕事に対する興味や関心が低いことが凄くあって、自分の役割として、そういうことに対して何かできないかなと思っていました。

その中で、6年間、こっちに帰って来てから過ごしていく中でやりたいと思っているのは、僕の会社、自分も折角ここに暮らすと決めたので、この環境を良くしていきたい。誰かを良くしたいというよりも、自分の環境を良くしていったら、誰かに繋がると思っているのでも、自分が楽しいことをやろうと思えば、ゲストハウスとか、外の人と中の人とが交流できる設定の促進をしたりとか、メディアで中のことを外に発信することなどを考えています。

他に、さっきの仕事に対する興味・関心が低いという課題感で、民間企業や、社会人による学校、運営も何かやってみたい。それこそ、ここにいる皆でやれたら凄く楽しいなど。体験的に、一過性のものでなくて、学校に近い形でやっていくのも面白いんじゃないかなと思っていました。

取り組みたいこととしても、学生、社会人の教育の場づくりや、働き方、経営者改革もやりたくて、結局、人がやりがいを持って働くためには、働く場所、経営者やビジョン、組織づくり、会社づくり、活動の作り方に起因しているところが大きいと思うので、経営者の質を上げていくことで救われる人はもっと増えていくんじゃないかなと思っていました。

その教育の場づくりと経営者の改革というのはやってみたいところだと思っています。

(知事)

ありがとうございます。

村岡さん自身が、今、何かこう、壁というか天井があって、それを何とかしなきゃいけないと思っていてというのが、凄く嬉しかったです。

話が変わりますが、JRがコロナの前、新幹線ができた頃の頃、2か所居住ということを考えてくれました。青森県内に住んだり、こちらの地域だと七戸の駅を利用して、いろいろできるんじゃないかということをご提案されたのですが、当時十数年も前のことで、なかなか良い答えが出せなかった。そういう2か所居住者には、1枚切符出すからとか、具体的に良い面白い話が次々出てきていたのですが、なかなかできなかったことがあって、とても残念に思っていました。

逆に今だったら、即住むんじゃなくて、2か所居住的に行ったり来たりができれば、この地域でいろんなことにチャレンジする人たちが、いろいろ出てきたんだろうなっていうことを、話を伺っていて思いました。

そういった場面で村岡さんにいろいろやって欲しかったと、今思っています。

その次の世代がきたんだなと、そう思っています。

だから、世の中って無駄なことはないというか、何か活動のエネルギーがあると、次の世代に何か伝わって、同じことではないけれども、いろいろできるんだなって思ってくれて、ということが起こってきたなと、この十和田でもと。

そして、先ほど、課題の話、既存の勢力がいろいろやらせてくれないという話がありましたが、

この十和田は、昔から自由な風土があった。凄いなと思います。今だからこそ、現代アートって、何かいいじゃないか、面白いじゃないかって言われますけど、あの美術館を、あの時代に作って、そのお陰で、台湾だ、韓国だ、中国だと人が来るようになってくれて。

青森県内は、弘前市もそうだし、皆、現代アートで勝負っていうか、うちが持っているのは、印象派でも何でもないけど、奈良美智さんに代表されるあの感覚ね。自由なアート、この表現はどうだというものを認めてくれる風土があるんだと思います。

村岡さんにも、もっと出番が来るからこれからも頼みます。

(地域産業課)

先ほどから、皆さんの豊富なお考えを聞いていて、本当に頼もしいなと思っていました。

私共では、創業起業を支援しています。

平成18年に一番最初に弘前市に創業支援の拠点を設けて、そこから16年でやっと、本当に地道に現場の相談員の方もやってくださいまして、去年は、149名の方が創業しました。そのうち、Uターンの創業の方は8名と。これを、是非、ずっと積み上げていきたいと思っていますところ。

また、相談会を21あおもり産業総合支援センターで、三沢、十和田市でも、商談会を巡回でやっておりますし、UIJターンの相談会も交通会館でもやっております。Webでも実施しておりますので、皆さんに是非活用いただきたいと思っています。

引き続き、どこかで頑張っている先輩がいる、こんなこともできるんじゃないかと、思っただけのように、どうぞよろしくお願いします。

(知事)

16年かかったな。本当に。

(労政・能力開発課)

村岡さんとは、私、商工政策課時代から商店街振興やクリエイティブ人材の関係でいろいろお手伝いいただいて、いろんな楽しいお仕事をさせていただきました。どうもありがとうございます。

私の方からは、学生、社会人の教育の場づくりについて申し上げます。

県内企業を知ってもらう取組として、高校生の方々にもアプローチをしております。実は、浄法寺さんの、材株式会社をお願いをして、県内工業高校、あと県内高校合わせて10か所で企業PRイベントや座談会を開催させていただいております。

そういった機会若くは若い人たちに県内企業を知ってもらう取り組み等々行っております。

大学生に関しましては、インターンシップで、県内企業、良いところがあるんだよということを知ってもらおうということで、今の時代を反映して、オンラインでの開催にも県では取り組んでおりますので、そういったことを通じて、県内企業の魅力をアピールしていきたいと思っております。

また、今年度から、県のPRになって申し訳ないんですけども、県内就職促進キャンペーンということで、プロモーション活動を行っております。6月には高校生向けに「らしくはたらく」をキャッチコピーとし、テレビCM等プロモーション活動を大々的に行いました。2月には、大

学生向けにプロモーション活動を行うことにしております、小学生から大学生まで、若い人に向けた情報発信等々、行っておりますので、引き続き御協力をお願いできればと思っております。

あと、村岡さんの言葉を借りれば、首都圏でイケてる中小企業経営者ということだったんですけど、首都圏に限らず、イケている経営者、こちらにいらっしゃる皆さんがイケてる経営者だと思います。

これから経営者に向けた意識改革を含めた、セミナーの開催等々、やっていきたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

#### (地域活力振興課)

多種多様な職種の方たちと協力して学生、ロールモデルを示せる場を作りたいということに對して、地域活力振興課の取り組みを紹介させていただきます。

ロールモデルとなるような人材を育成する取組ということで、先ほども浄法寺さんのところで御紹介したんですけども、あおもり立志挑戦塾という取組を行っております、今年度で15年目になります。

これまでに310名、今年度の塾生も含めると333名が参加しています。

県では、「人財」を人の財と書くんですけども、「あおもりを愛する人づくり戦略」を策定いたしました、人づくりに力を入れて取り組んで参りました。

立志挑戦塾はその取組の一環として行っているのですが、持続可能な地域づくりのためには、地域課題に主体的に取り組めるリーダーの育成と、それぞれの地域において、持続的に人財が育成されていく仕組みができていくということが重要であると考えています。

そういったことで、立志挑戦塾というものを実施しているのですが、この塾の修了生が志を持ってリーダーとして地域をけん引していく人財として育てております。

そして、その塾生自らが塾修了後に「あおもり立志挑戦の会」という任意の団体を立ち上げまして、それぞれが地域活性化の様々な取組を県内各地で自主的に行っております。

例えば、浄法寺さんが参加された第3期生におかれましては、「もっとユメココ」という取組を立ち上げておまして、県内の高校生へ職業講話を行う取組を実施されていらっしゃいます。こちらと県の事業であります、先輩から後輩への「夢相伝講座」という事業と連携をいたしまして、今も実施しております。今年度も12校で行っております。

学校塾を、これから立ち上げたいということで、立志挑戦の会には、ロールモデルとして講師となり得る人財が沢山いらっしゃいますので、連携できたらと考えております。

よろしくお願いいたします。

#### (生涯学習課)

村岡さんは、地域や人との交流をテーマに様々なことに取り組んでいらっしゃるというお話でした。

当課においては、地元の高校生と地元の地域活動者、この2つを繋げるという事業に取り組んでおります。「地域の思いをつなぐ若者育成事業」というものなんですけども、若者の自己有用感及び地域愛を育てて県内定着の促進を図る仕組みの構築づくりを行う事業になっております。

一例として、十和田市の団体「Future Generatins」というものがございまして、「中高生×地域の本気の大人交流会」というものを実施しております。大人と中高生が会話することで、地元

への愛着及び職業観を養うというように取り組んでおります。

今後も各地域で活躍する人財育成に努めて参りたいと思います。

(上北地域県民局)

村岡さんには、令和2年度から地域県民局と一緒に、若者の集まる場づくりに取り組んでいただきました。

その中で若い人、次のステップ、何かやりたいということに対するお互いの支援であるとか、あるいは情報共有する場を2年間やってきて、約40人の若者が参加しました。

そういう意味では、村岡さんのところが若い人が集まる接点のようになっていると思っています。

若い人が青森で暮らす選択肢を取るかどうかというのは、青森での起業という生き方がある、そういうことを知ってもらうことが勿論大事ですし、さらには、親以外の大人と知り合う機会。親はどうしても古い感覚で子どもと話をするので、そうじゃないことが一杯ある、つまり、ここに集まった4人の方、輝いている大人がいるんだということ。知事は先ほど、面白い大人と言いましたけども、そういう大人と出会う機会を作ることが大事なんだなと思います。

そういう意味で、今回、9月に、浄法寺さん、久慈さん、村岡さんに参加していただいて、2週間のインターンシップに協力していただきましたけども、是非、こういう機会をもうちょっと広めていきたいので、是非、今後も村岡さんのところで若い人と地域を繋ぐ接点になるように、私共と一緒に活動していただければと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

(久慈美穂氏)

活動内容としましては、小中学生向けの地域課題解決型のアクティブラーニング、サブは、ふるさと教育とか地域愛の醸成といったことも含めた地域課題解決型の事業をやらせていただいています。

あと、女性企業家向けのシェアオフィスの運営ですとか、キャリアデザインスクールを現在、立ち上げているところです。

活動を通じて感じる課題につきましては、やはり、この地域づくりの活動とか、女性活躍といったところの支援に関しまして、そういった分野で、その地域にもプレイヤーが足りなかったり、あとは、そういう繋ぎ役みたいな人たちも不足しているなど感じています。

女性の活躍を推進したいと思って、ここ数年動いて、シェアオフィスを立ち上げたりしています。つい最近、インターン生を受け入れて、女性の活躍、いろんな働き方をしている方に取材をしました。そこで面白いなと思ったのは、例えば、女性の方で、今は大学院を卒業して就職1年目、新卒1年目の方にインタビューさせてもらったら、家業がこちらにある方なのですが、継ぐか継がないかという選択ではなくて、どうやって家業と繋がりを持たせるか、みたいな考え方で、今、働いています。





(知事)

もうちょっと大きい感じになるわけですね。

(久慈美穂氏)

そうですね。

他に、行政の方に対するインタビューの中では、女性活躍もいろいろな施策が、ポジティブアクションというか、女性が望んでいないのに、そういう役職とかポジションにあてがわれてしまうような動きもあるので、割合的にこのポジションは女性がいた方がいいなというところで、双方の思いがかけ離れていたり、もうちょっと感情や考え方に対するコミュニケーションが凄く必要なんだなというところを、取材を通して感じたところです。

女性起業家向けのシェアオフィスの中身をもう少しお伝えしたいと思います。

うちは、今、6人の女性起業家さんが入居していますが、面白いのが、出産をして間もない、2か月とか3か月で復帰されて、自分で事業を興した方もいるんです。そういった方のお子さんを入居している他の人があやしながら活動、協力し合っていたりとか、何かその風景を見た時に、昔ながらの支え合う風景だなと思ひまして、そういうのが何かいいなと、何かこういうことがもっともっと定着していったら面白いなと思っています。

さらに、経営者が4人で、それこそあおもりフルールのメンバー4人で、りんご社長プロジェクトというものを、今、立ち上げているところです。

何かというと、その女性の起業家とか、経営者の質を高めるということで、学び合いの場を作っていきたいということで、今、計画しています。12月ぐらいには、第一弾のプレセミナーができるかなという感じです。

今後、県と取り組んでいきたいことに関しましては、小中学生からのアントレプレナーシップとふるさと教育という事業ですとか、あとは女性活躍に関するいろんな事業を進めることができたらと思っています。

中間支援の人材育成についても、共に取り組ませていただきたい分野ですので、今、実は私、6月まで、6年間ぐらい個人事業主でした。今年の6月に法人にしたんですけども、その時に、特定創業支援事業の事業計画も作成しようと思ったんですが、その時に送られてきたテキストペーパーのひな型を見て「質問の意味は分かるけど、どういうふうに書き出したらいいんだろうか」という経験があったので、今、キャリアデザインブックという、事業計画書を作るためのデザイン性のあるものを作っていました。その生かし方を県の方と是非一緒に考えたいと思います。

(知事)

小中学生向けの地域課題のアントレプレナーシップ教育を進めたいということですね。

本当に小中学生の頃から、高校生までそうだと思うけど、学校に行って給食食べて勉強して、宿題持ってきて、塾行ってと、どうしても子どもたちは狭い世界に居ざるを得なくて、自分の地域を知らないわけですよ。そこで育てているけど、意外と知らなくてね、自分のふるさと、あるいは、青森県っていうけど、津軽の方って何で雪、あんなに降るんだろうとか。津軽の人は、南部の方は何でいつも霧が出ているんだろうとか。意外と知らないのよ。気候風土の違いとか。

地域課題を解決するためには、自分たちのことをどう知るかということ等も含めて、取り組ん

でくれているということ、凄く嬉しく思いました。

だからこそ、我々フルールチームは、もっと仲間が起業創業しやすくするために応援しなきゃいけないんだと、そういうふうに捉えてくれて感謝いたします。

そして、シェアオフィスの話伺ったんですが、子どもが泣いていれば皆でめんどろ見る、私共の風土だなと思いました。上十三、凄く先進的だから。お互いの感性の自由を意外に大事にする、現代美術館ができてしまうぐらいの、思い切ったところがある。

久慈さんは凄く度胸があるなと思っています。

こうして、いろんな仕事を段取りしてくださっていることを嬉しく思います。

また、今日の意見交換会には県庁の女性職員が多く来てくれまして、これは別にわざとやったんじゃないかと、県庁では、既にちゃんと、女性活躍社会に入ってきているということを感じていただけたと思います。

採用にあたっては、最初の頃は、日本で一番女性採用が少なかったですが、今日は、こうして沢山きてくれています。

今日出席している地域活力振興課は、次々と面白いこと、いろんなことを皆さんと一緒に地域の方々とやってきたんですよ。

人材育成に関しては、人づくりをずっとやってきています。塾もその一環で、立志挑戦塾もあるし、農業のトップランナーの塾もあるし、海の方もあって。いろいろと、とにかく次の世代にかけているわけです。次の世代が成長するための取組を進めています。次の世代が絶対やってくれると思ってね。

#### (地域活力振興課)

どの分野においても、人と人を繋ぐプレーヤーが不足しているということで、地域活力振興課の移住・交流推進グループでは関係人口の事業を行っております。

地域が抱える課題解決をフィールドとして、県外から関係人口を呼び込む取組を平成30年度から継続的に実施しており、最初、企業に関係人口を入れるというような取り組みだったんですが、ここ数年は、市町村に課題解決のための関係人口、熱意のある方、首都圏の方々を市町村に関係人口として派遣して、一緒に課題を解決していただくというような取り組みを実施しており、着実に定着しているところでございます。

引き続き、関係人口の誘致に向けた取組に加えまして、関係人口を受け入れる地域の人材育成に取り組むことによって、関係人口を積極的に呼び込むための態勢づくりと裾野の拡大に取り組んでいきたいと思っております。

具体的には、今年度、今別、鶴田、南部町、昨年度は、外ヶ浜、藤崎、南部町で実施しており、それぞれが抱える課題に対応した取組の他、地域のコーディネーターの育成も行っているところなんです。

プロジェクトがとても面白くて、例えば、今年度の今別町ですと、食文化、地域に伝わる食文化を使った体験プログラムづくりを行っているほか、鶴田町や南部町では、ふるさと納税返礼品に関する情報発信だとか、体験プログラムを制作して、関係人口の創出に取り組んでいます。

(地域産業課)

事業計画書作成だけでなくやはり、その方のバックグラウンドやキャリアですとか、どういう情報がどういう形でどこまで入っているかというのは違いますので、今一度、相手の立場に立ったアドバイス等が適切にできるよう留意したいと思います。ありがとうございました。

また、久慈様には、あおりフルールで非常に精力的に活動していただいてありがとうございます。

今、プロジェクトを立ち上げて動かそうとしてらっしゃるとお聞きして、凄く頼もしく、嬉しいと思っています。

是非、私共も、例えば、情報発信を一緒にするとか、何か新しい、今まで繋がりのなかった方や組織を繋ぐ時に、一緒に続けてやっていただきたいと思います。やはり起業家さんのために一緒にできることがあればと思って聞いていましたので、引き続きどうぞよろしくお願いします。

三沢のシェアオフィスでも、当課の事業をやっていただいてありがとうございます。

(労政・能力開発課)

女性活躍推進ということで、久慈様には、本年度、こそもりプログラムの関係で講師を務めていただいて、その節はお世話になりましたありがとうございます。

県としては、人口減少が進んでいる中で、女性、働いていない女性、潜在的労働力ということでこれからどんどん活躍していただかなければいけないという思いで、事業をこれから構築していこうと思っております。

女性が働きやすいような仕組みづくり、これから取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

(知事)

2万人ぐらい女性の方で、何かしようかな、どうしようかなと。何となく家にいるからって、いいんじゃない、それも人生それぞれ。でも、何かもったいなくないかなって、皆思っていて、自分を表現、仕事で表現すること、そういったことも大事じゃないかっていうことで、2万人の方々にどう働きかけるかなって、なかなか難しいテーマです。でも、もったいないよなって。労働力不足の問題でなくて、何かしてみませんか。何か社会と関係していきませんか、まさに県内における関係人口にしていくかということ、皆、いろいろと考えてくれています。

(上北地域県民局長)

最後ということで、まず、浄法寺さんには、大学生、企業する方への支援ということで、メールをいただきました。

それから立花さん、ヘプタゴンのような企業が、県内でもいっぱいあるんだと。これを地方にもっと、若い人に教えてやってほしいという気持ちを受けとめました。

それから、村岡さんからは、革新的な御意見をたくさんいただきました。

最後に久慈さんですけども、やっぱり女性活躍推進。その中でも起業化していく方を支援するために、実施計画書を作る能力、それを活かす地域になって欲しいというふうなことで、様々な御提言をいただきました。

私共としましても、持続可能な地域づくりを目指して参りますので、引き続き御協力の方、よ

ろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

(知事)

今日は本当に忙しいところ、こうして集まってくれてありがとうございました。

Webもいいけど、皆で会えたということが嬉しいです。

いろいろなことができるようになった青森県ということだと思います。そのいろいろなことができるようになったことを、少し前の世代が様々な努力、踏ん張って、踏ん張って、地域興しだ、何興しだって、いろいろやってくれてね。津軽に行けば金木の元気倶楽部などを思い出すんだけど、おじさん年代も、いろいろなことをやっている中で、こういった変化の兆しを作り、そして、そこに本当にこういう新しいアイデアと感性の自由・発想の自由が表現できる青森県になった。だからこそ、ここからなんだって、本当にそういう想いです。

この4人の皆様方には、そしてその仲間の皆様方には、本当に期待します。これからも、自分にとって生まれ育ったふるさと青森県なんですけども、皆さんにとっても何らかの関係で、特にこの上十三地域で生きていく仲間、良い仲間がいて、いろいろなことができる、それをもっと幅広く、県内というだけではなく、どこまでも、繋がって、広がって、良いネットワークが広がったら、青森だけではなく、日本全体も良くなるのかなって、そんなことを思っています。

今日は本当に忙しいところ、こうして来てくれて、いろんな意見を言ってくれてありがとうございました。

